

スーパーサラリーマン

6月に入りいよいよ夏本番を思わせる暑い日々が続いております。我が家の近所でも季節の風物詩の田植えが始まりました。今月中旬には以前ご紹介したことのある、岸和田市の相川(そうがわ)町というところで、天然のゲンジボタルを觀賞することができる「ほたるまつり」が開催されます。ここちよい川風の中、しばし暑さを忘れて幻想的な気分に入るのもよろしいのではないのでしょうか。

さて、季節の風物詩といえば、先日恒例の2004年分の高額納税者の公示が全国の税務署で行われました。今回は景気回復傾向を表しているのか、公示対象者(所得税額で1,000万円を超える納税者)が4年ぶりに増加しました。今回の特徴は、番付の上位100人のうち、主な所得が給与だった人が26人もいたことです。給与といっても必ずしもサラリーマンとは限らず、会社の経営者であれば自社からの給与が多額であればランクインすることになります。

しかし、今回のランキングのトップは「タワー投資顧問」の運用部長である清原達郎氏という純粹のサラリーマンというから驚きです。現在の公示制度が発足してからサラリーマンがトップになるのは初めてで、清原部長の納税額は約37億円ですから、推定年収は約100億円になります。清原部長は、企業年金を運用する責任者で、99年4月の運用開始以来、株式市場が低迷する中で6年間で元本を6.4倍に膨らました実績があります。

タワー投資顧問はわずか社員15人位の会社ですが、運用する資産総額は約2600億円で、これでも大手と比較すると少ない規模のようです。同社の今年の3月期の営業収益が150億円ですから、その2/3を清原部長が受け取ったことになります。通常運用担当者の報酬は会社が受取る報酬の10%以下が相場らしいので、破格の金額となります。同社は「能力があり、大きな実績を収めた社員に高い報酬を支払うのが当社の方針」とコメントしています。

仮に一日8時間、月間20日間の労働時間と考えると、時間給はなんと約500万円となり、実に一般のサラリーマンの年収に相当します。「みのもんだ」の時間給が300万円といわれていますので、それをもはるかにしのぎます。その「みのもんだ」は今回の番付では昨年に引き続き俳優・タレント部門のトップで、納税額約2億円、これは推定所得5億3千万円となります。朝の番組で彼は「儲けの秘訣は寝ないことだよ！ガハハ」と高笑いしていましたが、レギュラー番組だけでも週32時間持っていることを考えれば、計算が???、あとはご想像にお任せしますが・・・。

人の懐具合を探りたいのは人間の性かもしれませんが、この公示制度はある種マスコミへの話題提供という側面もありますが、本来は「第三者のチェックによって納税者が正確な申告をすることを間接的に促進する」(国税庁)のが目的とされ、いわば「密告の奨励制度？」として所得税法第233条において規定されています。

法人税法や相続税法においても同様の規定がありますが、所得税のように一斉ではなく、公示の時期がバラバラになっています。有名人の相続税額などがたまに新聞で掲載されているのが、公示制度で公表された事実に基づくものです。しかし、公示されることにより、盗難などの犯罪に巻き込まれる恐れや、セールスや寄付の勧誘などの問題も多く、個人情報保護との関係で今後は廃止される可能性もでてきました。実名は伏せ、職業と地域位は発表してもいいのではと思うのですが。

ところで、高額納税者の公示とは程遠い庶民感情を代表する、「サラリーマン川柳コンクール」ベスト10がその少し前に発表されました。これも高額納税者と同様その時代の世相を反映しているので面白いのですが、本人にとっては笑うに笑えないものもあります。上位をご紹介しますと、第1位「オレオレに亭主と知りつつ電話切る」、第2位「ぺといえは母はヨンジュン父加トちゃん」、第3位「振り込めと言われたその額持っていない」、さらに第4位として、「ヨン様かオレは我家でヨソ様さ」・・・、世のサラリーマンは大変ですねー。